

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770800037		
法人名	有限会社奏和		
事業所名	グループホーム あいあい		
所在地	沖縄県浦添市城間一丁目2-12番地		
自己評価作成日	平成23年11月13日	評価結果市町村受理日	平成24年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4770800037&SCD=320&PCD=47>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成23年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは利用者の生活の場であり、利用者中心のケア、心に寄り添えるケアを目指している。しかし現実には職員中心のケア、良かれと思ってやったことが、利用者さんの気持ちとズレる事もあり、利用者さんと職員のズレが無い、心に寄り添ったかわりをして行きたいと思い、特に大切、力を入れたい。主治医はいつでも連絡が取れやすく、親身に対応してくれる。訪問看護も丁寧で、医療スタッフのいないホームでは、心強い存在である。代表者が外出支援に協力してくれたり、職員の対応が困難な場合に対応してくれる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは入居者の機能に合わせた活動を支援し、歩行可能な入居者は週に3~4日、車いす利用の入居者は毎週水曜日を外出日として取り組んでいる。代表者や管理者は、地域の方を対象に「認知症予防について」の講演会を行う等、専門性を活かした啓蒙活動で認知症への理解を深めている。また、市主催の「介護の日」には毎年参加し、今年は、入居者が作成したアクリル毛糸の食器洗いを販売し、入居者も売り子さんとして参加している。全入居者のかかりつけ医となっている主治医は24時間オンコール対応にて、夜間の状態変化の報告や主治医からの指示も可能となり、週1回の訪問看護を利用し、医療との連携に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は飾り物でなく、実践してこそ意味があるものとして、単に暗記、唱和することなく、日々意識してかかわるようミーティングや、不適切なケアの場面の時に、管理者と理念を確認している。	理念は、2年前に職員や入居者からキーワード形式に意見を募り、集約し作り上げている。管理者と職員は、日々のミーティングで事例を通して入居者の立場に立ち、それぞれの思いを話し合うことで「こころ寄り添い」とは等、理念に立ち返り理解を深め意識づけしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週に数回、商店街、スーパーへの買い物に利用者も参加、敬老会のご近所さんもお呼びし、行事のムーチャーを利用者さんと作り、利用者と近所におすそ分けしたり、馴染みの地域、場所への訪問を支援している。	入居者は近所を散歩の際に、住宅に寄り庭の花を觀賞したり、近隣住民から収穫したゴーヤーの差し入れ等の交流をしている。自治会に加入し、通里会の「ひーやーさいさい祭り」に入居者と職員が参加し、子供エイサーを見学する等地域活動で交流できるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者が、公民館で、認知症勉強会を行い、介護の日には市役所にて、ホームの様子の写真展示会、介護サービス説明を行った。今年は利用者とともに市役所で手作り商品の販売も行い、実際に触れ合う場面も作った。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの出来事、事故も報告、オープンにし、事業所の困り事に対する推進会議のメンバーから助言、アイデアを貰えるようにしている。今年はメンバーから認知症勉強会の機会、地域交流の相手の紹介、災害対策でアドバイスを頂いた。	運営推進会議は、市担当者も毎回参加して開催し、ホームの運営の取り組みや活動状況を報告している。災害対策について、運営推進会議委員より、タンスや棚の転倒防止、ガラス窓の飛散防止のアドバイス等、意見交換を行いサービスの向上に活かしている。しかし、インフルエンザ流行による中止があり、年5回の開催に留まっている。	運営推進会議は、基準省令で2ヶ月に1回以上の開催が定められているため、年6回以上の開催が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でのかかわりだけでなく、浦添市グループホーム連絡会の世話役として、市内ホームの運営上の解釈、相談、意見交換を持つ場がある。	行政窓口を訪問し、担当者に地域密着型事業所としての必要書類を提出している。浦添市グループホーム連絡会に市の担当者も参加し、現状報告や情報交換の場として活かしている。また、ケアプランの書き方の助言等、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、ミーティングで、勉強会を行ったり、日々のケアで気になることがあると、これは身体拘束に触れるのか？職員自ら考える、気づく機会を設けている。	事業所は「身体拘束をしない」を方針とし、職員は、年2回ホームの勉強会に参加し理解している。入居者の転倒防止の為、ベットの足下マットにセンサーを使用する事を家族に説明し理解を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には、虐待防止の資料配布、勉強会、事例検討会を事業所で行っている。事例検討会では、自らのケアを振り返って虐待防止の意識を高めるように努めている。			

沖縄県(グループホームあいあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には、ミーティングで権威擁護に関する勉強会を年に一度行っているが、外部研修に参加した事が無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項は必ず口頭で説明し、契約書の重要な事項も口頭で丁寧に説明するようにしている。料金改訂や、加算等が生じ、負担が発生する場合、個別に説明、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は利用者から職員のケア、その他の意見、要望を聞くようにしている。ご家族には訪問時、気づいたことは無いのか？職員にも一言聞くように指導し、何かあれば管理者に報告し、改善、返答するようにしている。	入居者や家族は、運営推進会議に参加し意見や要望を言う機会としている。入居者から「外出したい」「美味しいものが食べたい」等の意見には、職員の勤務状況に応じて散歩やドライブに出かけたり、食事のメニューに取り入れる等、入居者の要望に沿うよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に、「職員からの意見、要望、提案」の時間を設けたり、書式にて自由に記入してもらっている。管理者から代表者に報告し、職員の意見の反映を行なっている。	毎月のミーティング等で職員から意見を聞く機会としている。新人職員からは中々意見等がでないの、管理者の質問形式にした文面を用いて意見等の表出の機会を図っている。職員から夕食準備の負担軽減の為、勤務時間変更の要望があり、30分出勤時間を遅らせることで改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者、主任の意見を真摯に受け止め、現場の環境が向上するよう意見を聞いてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の現場教育は主任がフォローし、管理者は、日々の感想、困り事を聞くようにしている。その他の職員は年間に法人内外の研修の計画を作り、研修を受ける確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者が浦添市グループホーム連絡会の立ち上げ、その参加に協力したり、県のグループホーム連絡会の会合に参加させている。		

沖縄県(グループホームあいあい)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人は勿論、家族や利用施設の職員から日頃の言動を聞いたり、様子を見て、困っている事、不安を見極め、安心、混乱しないよう、早期に馴染んで頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談の際、ご家族からしっかりと話を聴くようにしている。まずは、ホームの利用を前提にせず、困っていること、ニーズを管理者がしっかりと理解し、ホームの利用のニーズが無くても、情報提供、困ったらまた連絡下さいと伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約や、利用の意向の場合、御家族、利用者本人は、ホームで過す時間を設け、状況によっては、昼間ホームで過し、夜間は自宅に帰るなど、安心、納得できるよう支援している。他のサービスが適切なら、その旨も伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・炊事や買い物で、役割や、出来る力を発揮して頂く場面を日常的につくったり、介護者から相談ごとをしたり、理念にも、「共に支え合う」関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あいあい便り、訪問時等に、利用者の家族を思う気持ち、会いたいと思えるような情報を提供し、絆を遠ざけないようにしている。例えば、こんな事が出来ましたよ、話してましたよと、プラスに考えるような支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントや、サービス会議の時などに、ホームとしても「馴染みの場所にお連れしたい、馴染みの人に会わせたい」事を伝え、可能な限り実行している。	入居者や家族から日頃の会話の中で、馴染みの人や場所の把握に努めている。入居者の住んでいた場所や職場近くをドライブし、近付くと道案内をする等回想法になっている。ちゅら海水族館の帰りに恒例としているふるさと訪問では、瀬底島に立ち寄り馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性、仲の善し悪しを考慮し、食堂や居間での席順を考慮したり、おやつ時はなるべく皆で食べるようにしたり、職員が利用者同士を手伝う場面を作ったりしている。		

沖縄県(グループホームあいあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住んだ先に、管理者は数ヶ月間様子を見に行き、必要な情報や物品(写真、使い慣れたもの)を持って行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、センター方式の用紙を用いて把握するようにしている。困難な場合は、管理者から希望、意向を聞く機会を設けている。	センター方式を活用し利用者一人ひとりの思いの把握に努めている。入居者同士の相性を把握し、席を変更する等で対応している。思いを表出できない入居者は、表情や態度(不眠やイライラ感)等から汲み取り、職員間で話し合い支援方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、センター方式の用紙を用いて把握するようにしている。困難な場合は、キーパーソン以外の方から聞くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る力の発揮は、利用者の「自信」にもつながるので、理念に入れ、その場面を管理者に報告したり、ミーティング等で情報を共有し、利用者さんにその機会を増やし、その実践で「自信が持てる」よう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画見直しの早急な発見、ケア方法の見極めが出来るよう、介護日誌に工夫をしている。特に、行動障害への対応だけでなく、利用者の状況に「問題が無いと思うことが問題」として、非活動的な事も問題にしている。	介護計画は、入居者や家族の意向に沿って作成している。モニタリングは毎月管理者と職員が実施し、介護計画の見直しは1年毎に定期的に行い、見直しが必要な入居者には随時対応している。介護日誌をプランと連動させたことで、モニタリングに反映しやすく見直しにも繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画とケアの連動、日々の気づきが計画に反映されるような介護記録に工夫を行っている。管理者から「回覧」として、具体的な実践を指示している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合によっては、ホームで病院送迎、お盆など自宅への送迎、訪問理美容の手配、祝い事のホームの場所の提供を行っている。		

沖縄県(グループホームあいあい)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で、事業所に対応できないサービスや、困りごとを包括支援センター職員、市役所職員などに助け、協力を求めたり、他の管理者、ケアマネージャーに連絡を行って解決の道筋を探っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、これまでのかかりつけ医の利用可能、その支援と、ホームのかかりつけ医も紹介し、御家族に希望を聞き、選択できるように支援している。	入居者や家族と話し合い、全員訪問診療所の医師がかかりつけ医となっている。入居者が月2回の訪問診療や月1回の訪問看護、必要に応じて訪問歯科が利用できるよう支援している。他科通院には管理者も同行し、家族が対応できない場合には代行し電話にて状況を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は受けているが、現在、利用者の主治医は、全員同じ医師なので、看護師より主治医に報告、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者は、入院先の担当相談員と定期的に情報交換し、面会し、入院時の支援、早期退院に向けてかわりを持っている。協力医療機関の相談員とは、利用者の受診時に挨拶に行ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急搬送時の延命措置、終末期のあり方について話し合いを持っている。また、心身の状況の変化の報告、必要な場合、主治医に直接家族が相談できるよう支援している。	ホームとして医師や看護師等関係者と連携し、「看取りを行う」という方針を入居者や家族と話し合い共有している。職員は終末期ケアの研修会等に参加し、ケアへの理解を深めている。入居者の状況に変化が見られる度に、最善のケア策について家族と職員が繰り返し話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、正確な情報提供出来るよう、個別情報書、その記入を行なっている。主治医に報告、その対応の指示を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所だけの対応になっており、地域との協力体制は築けていない。マニュアルは作成されている。	ホーム内はスプリンクラーや緊急通報装置、火災報知機等の防災機器を設置し、懐中電灯やカセットコンロ等の備品も準備している。消防署協力の下で避難訓練や、昼夜を想定した自主訓練を実施しているが、地域住民の参加協力には至っていない。	避難訓練へ地域住民に参加の呼び掛けを行ったが協力が得られていないことから、再度地域住民と連携を図り協力体制を築くことに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ねその確保は出来ていると思うが、業務に追われたり、忙しい場面、利用者からの強い抵抗、拒否に対し、時折、職員も感情的となる事があり、いつ、どんな状況であっても、表情や声のトーンに注意していきたい。	入居者の表情やしぐさから思いを察知し、ケアに取り組んでいる。入居者への言葉かけや、拒否する場面等での様々な困難事例を挙げて、全職員で検討しケアに繋げている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人から意思確認が出来る方には出来ているし、それが難しい場合でも、出来るだけ声かけ、気持ちを聞く機会を持つようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝は一律で決めるのではなく、生活リズムは大切にする上で、朝寝坊良し、夜ふかし良しとしたり、時間に必ず利用者の行動を合わせるようにはしていない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人から意思確認が出来る方には出来ている。センター方式の用紙を使ってその把握、支援に努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いの可能な方には、したい事、出来る範囲で無理強いする事無く手伝ってもらっている。食事の盛り付け、色合いも配慮するようにしている。嚥下障害者も、全てミキサー、トロミではなく、好きなお菓子は見守りながら、そのまま出す事もある。	入居者と職員が3食ともメニューを話し合ったり、買い出しから調理の下ごしらえや食器洗い等、入居者本人が体調に合わせて参加している。入居者と職員全員と一緒に食卓を囲み、食事を摂りながら会話を交わしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎食記録して、摂取量が少ない場合の支援、医療面では医師に報告し、適切な対応の確認、必要な栄養補助剤の支援を行なっている。献立作成時に、材料を明記し、バランスのチェックを行なっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に夕食後は、義歯清掃、うがい、口腔ティッシュを用いて、口腔ケアを行っている。自らケアが出来ない方には職員が行なっている。必要に応じ訪問歯科による口腔チェック、ケアを行なっている。			

沖縄県(グループホームあいあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、トイレ誘導を行っている。リハビリパンツを着用しても居室にポータブルトイレを設置したり、センサーで、排泄の介助を行い失敗を防ぐようにしている。	排泄チェック表を活用し、入居者個別にトイレでの排泄を誘導している。失敗時にはさりげなく声かけし、トイレ内のシャワーで半身浴やウォシュレット洗浄で清潔を保持している。夜間のみポータブルを希望する入居者には、トイレ誘導も行うが安心して頂けるよう設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の配慮を行ったり、特に水分量は毎日記録したり、便秘薬の使用についても、便秘日数に応じて職員が量を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽に入りたい方には入ってもらっている。時間帯に関しては、なるべく希望を叶えるようにしているが、職員の都合になってしまっている。	午後の入浴時間を基本として、同性介助による個浴で支援しているが、希望があればそれ以外の時間でも対応を可能としている。浴槽を希望する入居者には、好みの入浴剤を使用している。拒否される場合には、足浴や清拭等本人に確認したり、時間を置いて声かけする等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時に、これまでの1日の過ごし方を聞いて、尊重したり、日中の個別の疲れ具合、体力、体調に合わせて休息をとれるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の薬の情報書は、薬ファイルにまとめ、効能、副作用を確認できるようにしている。薬の副作用と思われる場合は主治医に報告している。薬についての勉強会は行っていないので、行いたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族、本人から役割、楽しみを聞くようにはしている。介護記録にもその発見、情報共有し、その機会を設けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に数回は、希望者と買い物に出かける。毎週2回はドライブに出かけている。ホームの都合により、出来ない日もある。ホームの対応が困難な場合御家族にもお願いしている。	入居者と職員が週2回のドライブや食材の買出しに、希望者を募って出かけている。入居者本人の希望により、詩吟の鑑賞や遠出する際には家族も参加し協力している。毎週水曜日には車椅子の入居者が近所を散歩し、住民との会話を楽しんでいる。	

沖縄県(グループホームあいあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、2名の利用者さんがお金を所持し、一緒に買い物したり、買ってきて欲しいものを職員が買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の求めや、様子に応じてご家族と電話で話ができるよう支援している。基本的には本人のお部屋に 子機 を持って話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居心地よい環境に気づき、変えて行こうと、管理者は、ミーティング等で職員に聞く機会を設けたり、書式を作り、気づいたことを書き込んでもらっている	入居者は居間のソファや椅子に腰掛けてテレビを見たり、民謡を聴いたりと思いの場所で見ている。台所で調理している音や匂いのある居間で入居者は、ベランダにある観葉植物を眺めながら過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ていない。現在、仲の良い利用者同士の部屋で過ごしてもらったりはしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には、馴染み、使い慣れた物品、装飾品があれば部屋に持ち込むよう御願っている。無い、協力が得られない場合、利用者と買い物に出かけたり家族の写真を貼ったりしている。	居室にはホームで準備したベッドとタンスを設置している。入居者は扇風機やテレビ、ラジカセにテーブル、椅子のセット等を持ち込み、壁には温度計を掛けたり、家族の写真が飾り本人の好みに合わせた個性的な空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の混乱がある場合、ドアに名前を貼ったり、曲がり角に目印をするなどの工夫をして、わかる力を活かし、職員が全て誘導しない配慮をしている。		